生徒の皆さんへ　校長メッセージ　１月２２日（木）　No. ９

【生徒会スローガン】

Be fearless ～伝統と共に煌めく未来へ～

３学期始業式　「式辞」

おはようございます。

２０２６年、令和８年の幕が上がり、今日から、３学期が始まります。

今学期は１年の始まりと、現学年の終わりと言う、二つの意味で大変重要です。

新年を迎えるにあたっては、より良い１年にしたい思いが湧き起こり、新たな目標・夢・志を抱きつつ、幸運に恵まれたいと願ったことでしょう。

「幸運は準備された心のみに宿る」と言うように、自らのひたむき、不断の努力により得られるものです。「棚からぼた餅」のように、偶然降ってくることは希です。表裏なく、真面目に、真摯に誠実に一生懸命物事に取り組んでこそ、神や天という、サムシング　グレートは、願いを聞き届けてくださるのです。

学習、掃除、生徒会や委員会活動、部活動、行事など、すべきことに全力で取り組みましょう。

今年は午年で、「活発で前向き、物事がスムーズに進みやすい、努力が形になりやすい」と言われています。

折しも、今年、山口中村学園は、長き歴史を紡ぎ１６０年という大きな節目を迎えるとともに、女子校から「完全共学化」という記念すべき大きな変革を行います。新入生も昨年度を大幅に超える増加が見込まれ、大きく飛躍、発展していく兆しが感じられます。

歴史、生徒数以上に大切なことは、皆さんの姿、態度、行動、活躍です。

市民、地域の人は皆さんの様子を、ニュース、HP、インスタ、登下校、地域へ出向いての活動等で、よく見ておられます。私の耳には、「山口中村学園は勢いがある、活発に活動して、地域も大助かり、卒業生も誇りに感じている。」と言ったお声が届いています。素晴らしいことです。

皆さん一人ひとりが、山口中村学園の代表者です。

馬の鳴き声は、オノマトペ擬音語で「ヒヒイーン」です、人としての品、品格が大事です。そのことが、山口中村学園の人気、評判、評価をさらに高め、皆さん自身のプライド、誇りに繋がり、引いては進学、就職に好影響を及ぼします。

短い３学期が終われば、３年生は卒業、進学や就職して、１・２年生は一学年進級という、新たなステージへ上がります。

１年の計は元旦、一月の計は朔日・一日、その他物事の計は始まりにあり、１日は１生の縮図です。今日の１日、今のこの時を大切に、来たるべき新たなステージで活躍できるよう、すべきことに全力で取り組みましょう。

裏面に続く

「幸せの青い鳥」は、そばにいる。自分で見つける、気づく。

「 自分で見つけながら 」
宮澤章二

生きることにあきたな　なんて言うな
花の乱れ咲く春が毎年めぐって来るように
流れる汗を楽しむ夏も毎年めぐって来る

生きていても楽しくないな　なんて言うな
泉のようにあふれ続ける　若い命の力
その力が尽きぬ限り　楽しさも必ず湧く

やりたいことがないよ　なんて言うな
やっても仕方がないよ　なんて言うな
どうしてもやらなければならないことが
人間のつくる社会には　無限にある

それはなにか　それは　どこにあるか
みんなが　自分で見つけながら生きている
楽しい遊びを　笑いを　よろこびを
幼児たちさえ自分で見つけるではないか

幸せは誰かが与えてくれるものではなく、自分で気づく、見つけるものです。

そして、幸せには三種類あるといいます。**①してもらえる幸せ。②自分でできる幸せ。③誰かにしてあげる幸せ。**

このことは、自分が赤ちゃんの時から高校生の今を振り返ってみると容易に理解できると思います。①よりも②、②よりも③がより高度の幸せです。

１月１２日は「成人の日」で、各地で二十歳を祝う式典が開催されました。皆さんも、法的な成人年齢１８歳を、在学中に迎えます。これまで育ててもらったことに対する感謝の気持ちを、何かの機会に、何らかの形で表現し、伝えられるといいですね。

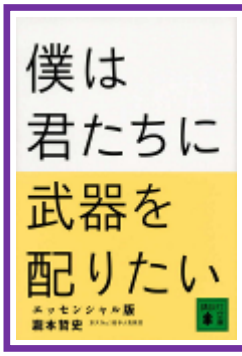
親思う心にまさる親心、けふの音づれなんと聞くらん　吉田松陰

上の短歌は、松陰が 30 歳という若さで、安政の大獄により処刑される１週間前に家族にあてた別れの手紙の中に記載されていたものです。

子が親を思う心よりも、子を思いやる親の気持ちのほうがはるかに深いという意味です。「親の心、子知らず」とか「親になって初めて知る親心」「子を持って知る親の恩」など、表現は多様ですが、言わんとすることは、親の存在や、当然のようにしてもらっている行為に対して感謝し、親の恩に報いるように、生きていくことが大事だということです。

心を育み、脳を活性化する読書

豊かで、便利、しかも快適な生活が送れる現代ですが、一方変化が激しく予測困難な時代とも言われたり、現在小学１年生が、『いまはまだ存在していない仕事』に就く割合は６５％という説もある中、生活費を稼ぎきちんと人生を送るためには、どうしたらよいのか、参考になります。



『僕は君たちに武器を配りたい　ｴｯｾﾝｼｬﾙ版』　瀧本哲史　著　講談社文庫

２０１１年に単行本として出版され２０１３年にエッセンシャル版が出されています。１３年前の本ですが、古さを感じさせず、むしろ変化が激しく先行き不透明な現代において、学校では学べない貴重な内容だと思いました。受動的に生きるのでなく、指し手感覚で自分の人生を主体的に生きる上で考えるべき内容や、身に付けるべき資質・能力が分かります。刺激的です。